

METTS NEWSLETTER

教職課程センター・地域学校教育センター

特集 教員採用試験・一次試験通過者 18人の快挙

今夏、新しい教職課程の下、1年生から教職を学んできた外国語学部日本語学科及び英米語学科の4年生20人と英米語学科卒業生8人が、教員採用試験を受験し18人が一次試験を突破しました。都県別の一次試験通過者数は下表のとおりです。

各地区の二次試験では、全員に日本語での個人面接、集団面接が行われました。さらに英語受験者には模擬授業(千葉県)、リスニングテスト(東京都)、英語面接試験(東京都、千葉県、埼玉県)が課せられる実技試験がありました。一次試験結果発表以来、二次試験前日までMLACCのパトリツィア・ハヤシ教授、タイソン・ロード准教授のサポートを受けながら、受験者は連日練習を行い二次試験に臨むことができました。各都県10月には最終結果が発表されることになっています。人事を尽くして天命を待つのみです。

受験地	校種・科目	受験者数 (人)	現役 通過者数 (人)	既卒者 通過者数 (人)	通過者数 合計 (人)
東京都	中高国語	2	1	0	1
	中高英語	9	6	0	6
千葉県	中高国語	1	0	0	0
	中高英語	8	4	3	7
	小学校全科	2	1	1	2
埼玉県	中学英語	2	0	0	0
	高校英語	1	0	1	1
新潟県	中学国語	1	0	0	0
	中学英語	1	0	0	0
岩手県	中学英語	1	1	0	1
合計		28	13	5	18

千葉県英語面接練習中の山崎紗緒里さん



MLACC タイソン・ロード准教授の指導を受ける中村陸さん



文部科学省「小学校外国語の専門人材育成・確保事業」受託

明海大学は文部科学省の公募事業「令和2年度教員養成機関等との連携による小学校外国語の専門人材育成・確保事業」に応募し、7月15日に提出案が採択され、8月3日には文科省との正式契約を結ぶことができました。小学校教員養成課程を持たない明海大学が多数の応募の中から採択されたことは、大きな喜びです。

具体的な内容は、連携協定を結んでいる浦安市、足立区、横手市の3地区の小学校の先生方が外国語教育に関して共通して抱えている課題を講座内容として扱い、その課題解決方法をオンライン講義とワークショップを通じて提示します。また、事後にはその成果を明海大学のホームページに掲載し、小学校英語教育のためのリソースとして広く活用できるようにします。提携先の小学校の先生方200人への配信日は10月20日(火)、11月18日(水)、11月25日(水)、12月16日(水)、12月24日(木)の5回です。

9月15日には第1回検討委員会オンライン会議が開催され、安井利一学長をはじめ明海大学関係者に加えて外部協力機関であるJ-SHINEから上智大学藤田保教授、玉川大学佐藤久美子名誉教授、連携区市教育委員会、再委託先である技術担当の(株)モアカラーが参加して今後の計画等について協議されました。

METTSでは今回の事業受託を契機に小学校英語教育についても研究を進め、中高英語教員をめざす学生の指導に役立てていきます。



挨拶する安井利一学長

2020年度 コロナ禍の中教育実習始まる

新型コロナウイルス感染拡大を受けてほとんどの教育実習が9月以降に延期された中、英米語学科4年生の宮本隆一さんは母校である千葉県立姉崎高等学校において6月15日から7月3日の3週間教育実習を行いました。以下は宮本さんの感想です。

「母校での3週間の教育実習は、長いようであつという間でした。教育実習に行く前は、生徒達と仲良くなれるか、上手く授業をできるか不安でした。しかし、教育実習が始まると気さくに話しかけてくれる生徒が多く、すぐに馴染むことが出来ました。4日目から授業をするようになり、徐々に教壇に立つことには慣れてきましたが、反省や課題が尽きることはありませんでした。指導教諭の先生には、授業を終える度に的確な指導をして頂き非常に勉強になりました。ペア活動の禁止など制約もありましたが、この3週間の実習を通して教職のやりがいや現場の大変さを改めて感じました。それと同時にこの経験は私にとって宝物となります。教職への希望がますます強くなりました」



改めて感じました。それと同時にこの経験は私にとって宝物となります。教職への希望がますます強くなりました」

日本語学科4年生の関玲於那さんは母校旭川実業高校で8月24日から9月11日までの2週間教育実習を行い、次の感想を寄せてくれました。

「このような状況下で実習を受け入れてくれた旭川実業高校に感謝しています。実習を終えて大きな充実感を得ました。開始前には大学で培ってきた力がどこまで通用するのか不安でした。実際に授業を行ってみると自分の知識不足を痛感し、これが今後の課題だと改めて感じました。一方、大学の授業で行った模擬授業の経験を研究授業に活かすことが出来ました。発声の良さや授業に取り組む姿勢を高く評価していただいたことが今後の自信にも繋がりました。教科指導ばかりでなく日々の業務の大変さと、同時にやりがいを感じる事ができました。生徒のためを思い行動したことに対して生徒が応えてくれる瞬間や生徒同士が笑顔で話している様子を見てると嬉しくなりました。教員という仕事の魅力に触れることができた瞬間でした。今後は母校の先生方のように生徒の成長を第一に願い行動できる教員になろうと決意しました」



ボランティア活動再開 未来塾・寺子屋

小中学校の夏休みが終わり、本学学生が参加できるボランティア活動も始まりました。

右写真の中央は浦安市青少年自立支援未来塾英語教室で中学生に英語を教える英米語学科2年生の佐藤向日葵さんです。

中学生の笑顔が佐藤先生への信頼を示しています。この未来塾には佐藤さんの他に同じく英米語学科2年生の鈴木歩さん、佐保翼さんが参加しました。9月からは経済学部学生が数学教室で支援を行っていますので、後日報告します。



下の写真は都立葛西南高校における校内寺子屋で英語補習授業を行う英米語学科2年生の高橋凜さんです。この事業はすでに4年目を迎え、参加した多くの英米語学科学生が生徒に接する喜びや難しさを経験してきました。英語が不得意な生徒をサポートするために自主的にオリジナル教材を作成する学生もいます。ボランティア活動を行う側も受ける側も双方に利益を得られることがこうした事業を長続きさせます。



に接する喜びや難しさを経験してきました。英語が不得意な生徒をサポートするために自主的にオリジナル教材を作成する学生もいます。ボランティア活動を行う側も受ける側も双方に利益を得られることがこうした事業を長続きさせます。

英語科教育法集中講座

英語科教育法履修者を対象として9月4日、5日にオンライン集中講座を行いました。プログラムは高野敬三副学長、石鍋浩教授による講義の他、3人の卒業生(千葉県立佐倉高校 滝口圭太先生、我孫子市立安孫子中学校 上川哲先生、大網白里市立大網中学校 内山葉月先生)の授業実践報告がありました。5日午後には元NHKワールドニュースアナウンサーで現在はプロ朗読家として活躍中の青谷優子先生による「聞き手に伝わる声を作る～朗読メソッドを用いて言葉に息を吹き込もう～」と題したワークショップを行いました。



青谷優子先生

アゴラ活用状況(人)	
7月・8月合計	1475
2018年度からのべ数	28876